

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2018

春

No.39

# JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人  
上越教育大学  
Joetsu University of Education

学園だより

特集

## 「模擬授業コンテスト」で 磨きあった授業力

～充実した教育実習の実現を目指して～



身近なものを

時間をかけて考える



# 研究室

## へようこそ

日本語を研究すること

日本語は上教大の学生の多くにとっての母語に当たります。学生のみなさんは、ふだん日本語で会話できているのだから、自分は日本語を使えるし、知っていても考えていると思いません。しかし、みなさんは、確かに日本語を使えるのかもしれないが、実は日本語をほとんど知りません。

一例として助詞の「が」を挙げてみましょう。「私が大学に行く」の「が」を取る「私は」「行く」という行為の主体です。でも、「水が飲みたい」の「が」を取る「水」は、「飲む」という行為の主体ではありません。では、結局のところ「が」はどんな機能を担っているのでしょうか。答えるのが難しいと思います。「主語」と呼べば何となく説明できた気がしますが、その「主語」の「が」の働きは、名付ただけではやっぱり分かりません。そうした言語の要素ごとの働きをひとつひとつ解明していくのが、日本語学という学問です。

鯨井 綾希 (くじらい あやき) 人文・社会教育学系 講師

専門は国語学(日本語学)。文章と語彙の相互連関に興味があり、計量分析を通してその解明を目指している。宮城県仙台市出身。愛媛大学法文学部卒業。東北大学大学院文学研究科修了。博士(文学)。2017年6月より現職。車(CX-3)やバイク(SR400)でのんびり地域散策するのが趣味。年に数回妻と旅行をするのも楽しみ。写真は絵本『フレデリック』およびフレデリックのぬいぐるみと。



## 一生の宝になるような 大学生活

私は、大学に入ってからやりたいと思うことがたくさんありました。自由で充実した大学生活を実現するためのあたたかい支援があり、支えてくれる仲間がいる、それが私にとっての上越教育大学です。

### 力になる授業

私は大学に入ってからやりたいと思っていたことの一つに海外での教育研修がありました。これを実現してくれたのが、学部1年生のときにあった海外教育研究Aという授業です。この授業で私は約2週間オーストラリアに行き、チームのメンバーとともに上越教育大学の提携校であるウェストミンスター・スクールの子どもたちに英語で授業を行うことができました。

チームが組まれてから、授業のテーマ決め、授業づくり、現地に行っても授業毎に反省会とその改善、と初めてのことばかりの中で最後までこの授業をやり遂げ、教育研修最後の授業で満足いくものができたのは、チームのメンバーや周りで支えてくださった先生方のおかげだと思います。チームのメンバーには、教職大学院や免Pの方もいらして、実際の教育現場での経験などをたくさん聞くことができたこともとても良い経験となりました。

### 感謝の気持ち

私のこの3年間を笑顔いっぱいにしてくれたのは、吹奏楽団でした。3年間を通して、尊敬する先輩方や、ともに団をまとめた同輩、慕ってくれた後輩たちに出会い、様々な経験をすることができ、今後の人生の大きな力になるだろうと確信しています。この楽団を通して、地域の方々や、近隣の小学生・中学生・高校生との交流、大学内外の仲間との強いつながりができたことも一生の宝に感じています。

これらの経験を活かして今後私は、人とのつながりや感謝の気持ちを大切にして、将来の夢である教師に向かって残り1年間を走りきっていきたいです。



学部3年  
言語系コース(英語)  
岩崎 朱佳 さん

# 特集

## 「模擬授業コンテスト」で 磨きあった授業力

### 充実した教育実習の実現を目指して

今回の特集は、「模擬授業コンテスト」を通して、教員を目指して日々努力を重ねている学生たちの様子をレポートします。

本学では創立以来、教育実践科目の充実を図り、教員に求められている資質や実践的な能力を学生が備えるように、1年次から体系的な教育実習を実施するなど、教育実習を重視してきました。

上越を中心とした県内各市及び教育委員会と協力体制を築き、可能な限り学校現場からの声に耳を傾け、日々の教育活動や教育実習の事前事後指導に生かすように努めてきました。その中

で、学校現場から「指導案の作成の方法や指導技術を確実に身に付けて実習に送り出してほしい」という要望が寄せられることがあります。

また、中教審答申では、これからの学校教育を担う教員の資質向上について「アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善」「ICTを用いた指導法」「道徳教育の充実」「外国語教育の充実」「特別支援教育の充実」等の新たな教育課題に対応した教員の養成が強く求められています。

教育実習の前年に、必要な理論、技術、方法の習得を通じて実践的指導力の基礎を培うことを目指し、本学では「教育実地研究Ⅱ（授業基礎研究）」の場で、また11月15日（水）に、学部生16名の代表者が3会場に分かれて実施された授業後には、附属学校と本学キャリアコーディネーターの先生方による審査を経て、会場ごとに最優秀賞と優秀賞を決定しました。

今年度は、各教室で模擬授業を行う際に、互いに授業の様子をタブレット端末で撮影し、リフレクションを行う時間を設けました。また、模擬授業コンテストの前に、代表学生の授業をグループで再検討し、発問や教材の質を高めるための取り組みが各グループで行われるなど、例年以上にレベルの高い充実したコンテストになりました。

授業を実施しています。学部2年生及び免P生の必修2単位（通年23コマ）で、これを修得できなければ、初等教育実習、中等教育実習を履修することはできません。

この教育実地研究Ⅱの授業において、平成22年度より「模擬授業コンテスト」を実施しており、学生が先生役と児童生徒役も務める実践的な演習授業で、立場を変えた視点から教育の営みをとらえ直す貴重な機会になります。

また、コンテストに先立って受講者全員が模擬授業を行い、グループ毎に代表者を決め、入賞を目指して他の学生も教材づくりなどをサポートするほか、学生同士で授業の評価を行い、改善を図ることで、教員として授業に臨む姿勢や授業の充実に必要な技術・方法を習得することをねらいとしています。

今年度の模擬授業は、平成29年11月8日（水）に、免P生8名の代表者が2会



**免P＝教育職員免許取得プログラム**  
 本学大学院入学者で、教員免許を持っていない方や他校種、他教科の教員免許を取得したい方を対象に、長期履修学生制度を利用し、2年分の学費で3年間で在学し、大学院の教育課程と学部の教員養成カリキュラムの単位を修得することにより、教員免許状取得の資格を得ることができるプログラムです。

**きかん 机間指導**  
 授業中に、教師が席の間を歩きながら、個々の児童・生徒に対し観察や指導などを行うことです。

**リフレクション**  
 反射、反映や内省、熟考などを行うことです。

小学4年生 保健  
「すくすく育てわたしの体」



**高辻 紀乃さん** 学部2年 生活・健康系コース (保健体育)

**授業のポイント**

- ホワイトボードを配り、児童の意見を視覚化できるようにしました。
- 朝ご飯を考え、朝ご飯の問題点を自分の意見として持てるようにしました。
- 机間指導により、よりこの授業のねらいに近いところまで問いかけました。

小学1年生 算数  
「『いくつといくつ』の導入」



**松尾 友紀さん** 学部2年 教職デザインコース

**授業のポイント**

- 手製のおはじきと箱を配り、楽しみながら学ぶことを意識しました。
- 児童が実際に手を動かす活動を入れました。
- 手製のおはじきと箱で楽しく印象に残る授業を目指しました。

中学2年生 音楽  
「ボディーパーカッション 導入場面」



**西沢 泰明さん** 大学院1年 芸術系教育実践コース (音楽)

**授業のポイント**

- アンサンブルを意識するために後出しじゃんけんを行いました。
- どうしたらタイミングを合わせられるのか全体で考えました。
- お手本となるペアに全体の前でじゃんけんをしてもらいました。

小学6年生 社会  
「新しい時代の幕開け」



**佐藤 優さん** 大学院1年 教育連携コース

**授業のポイント**

- 黒船来航の絵図を用意し、当時の様子を想像させました。
- ペリーの似顔絵を用意し、当時の人々の気持ちを想像させました。
- 世界地図や地球儀で、黒船の航路を予想させました。
- 意見を付箋で貼らせることで、児童の考えを引き出そうとしました。

下記の観点から評価しています

- 1 構想・準備**
  - ・学習指導案・板書計画がきちんと書けているか
  - ・ねらいが明確か
  - ・教材・教具がしっかり準備できているか
- 2 展開**
  - ・視線を全員に向け、授業できているか
  - ・笑顔で、適切な声量で話しているか
  - ・「あの、えーと」等余計な言葉がなく、端的に発問・指示・説明できているか
  - ・丁寧に板書しているか
  - ・子どもの発言に対し、適切に応答しているか
- 3 評価**
  - ・机間指導等で、学習状況を把握しようとしているか

小学6年生 外国語活動  
「英語を使って楽しいアクティビティーをしよう！」



**橘内 恵さん** 学部2年 言語系コース (英語)

**授業のポイント**

- 授業は英語でするので、視覚的要素を多く取り入れました。
- スリーヒントクイズでは、「聞くこと」に加え「考えること」も大事にしました。
- 子どもたちと積極的に英語でやり取りをしました。

子どもを惹きつける  
さまざまな工夫が見られます



**総評**

コンテストでは、各グループを代表する学生が、それぞれに子どもたちを惹きつけるように工夫を凝らした授業を行っていました。外国語活動に挑戦したり、ICTの活用を試みたりする授業もありました。主体的・対話的な学習を実践しようと努力する姿が見られました。来年度の教育実習に向けて、貴重な経験になったことと思います。



コンテストでの取り組みを参考に学部2年生及び大学院免P1年生が模擬授業を行います。

コンテスト後の授業の取り組み

現場での多くの授業は指導案通りには進みません。そのライブ感が逆に楽しいのです。目の前の子どもへの反応をどれだけ見て取り、授業の流れを柔軟に変えていけるかが大事です。型をしっかりと身に付けた上で、更に一歩先の良質な授業を目指してほしいと感じたコンテストでした。

「即教育実習に行っても」「いや、現場の即戦力かな」などと思いましたが、最優秀賞に選んだのは、机間指導で一人一人の反応を丁寧にとらえ、支援していた授業でした。

どの学生の授業も甲乙付けがたく、「即教育実習に行っても」「いや、現場の即戦力かな」などと思いましたが、最優秀賞に選んだのは、机間指導で一人一人の反応を丁寧にとらえ、支援していた授業でした。

期待通り、いやそれ以上に趣向が凝らされていて、教材の準備も周到に行われ、テンポのよい授業が次々と展開されていました。



第2講義棟202講義室で代表5名の学生の授業を見せていただきました。各グループの代表であり、代表者決定後はグループの皆で意見を出し合い、更により授業につくり替えていったと聞きました。

青木 弘明 上越教育大学附属小学校 教頭

【児童生徒役となった学生からの感想】

【先生役となった学生からの感想】



コンテストに出られた代表者の人たちの授業は、とても分かり易いものでした。「これを伝えたい」という気持ちそのまま授業に表れていて、授業の構成はもちろん、教材や模擬授業のための準備、授業における話し方や児童の発問への応答がすばしかったです。特に、私が受けた授業では、新しく小学校でも科目化される英語を取り扱っていました。授業の8割が英語でしたが、使う単語は分かり易く、話し方もゆっくりでジェスチャーや絵などの視覚的要素が多く、英語が分からない小学生でも、少し理解できるような工夫がされていました。今回のコンテストでは「伝えたい」という気持ちの大切さを学んだように感じます。出場者の模擬授業を参考に、来年の教育実習ではよりよい授業が作れるよう励みたいと思いました。

くまが い なつ き  
熊谷 菜津季さん  
学部2年 臨床心理学コース



今回、模擬授業を受け同じ学年の仲間からたくさん刺激を受けることができました。授業をしてくれた代表者の人は皆、様々な工夫をしていると感じました。私が受けた授業では、一人一人に手作りの教材が渡され、自分の手元で実際に操作しながら授業に参加できたのでとても楽しかったです。他の代表者の人の中にも実物を用意している人がいて、目に見えて体験できる授業は面白いと思いました。コンテストを終えてみると、今までの自分の模擬授業はまだただなと思う部分がたくさんありました。授業で使う教材や発問の仕方を改善していきたいです。これから、たくさん経験を積んで、自分の引き出しを増やしていきたいと思いました。

みやもと さほ こ  
宮本 彩恵子さん  
学部2年 生活・健康系コース（家庭）



コンテスト発表者の模擬授業は板書の仕方や声の大きさ、授業の流れといった基本的な面において非常によくできており、自分が見習うべき点がたくさんありました。入念に準備された教材を通して、生徒たちの主体性を大切に授業づくりは本当にすばしかったです。教育実地研究Ⅱは各クラス担当の先生のご指導のもと、生徒役もアドバイスをしてくれるので、様々な視点から自分の模擬授業を分析することができ非常にためになりました。私は、技術・家庭科の先生を目指しているので講義形式の授業だけではなく、実践的な授業も多くなります。教育実地研究Ⅱでの学びを踏まえて、本番の教育実習では生徒たちとの関わりを大切にしながら、ただ知識を教えるのではなく、授業を通して生徒たちが実際に何が出来るようになるのかといった資質・能力の育成を念頭に置いて取り組んでいきたいです。

たけ た たかひろ  
竹田 高大さん  
大学院1年 グローバル・ICT・学習研究コース



今回実際に児童役として授業を受けたことにより、児童にとってはどのような授業が分かりやすく興味をもって取り組めるのか身をもって感じることができました。自身の授業を振り返ってみると、授業が教師からの一方通行で児童の意見を聞く場や話し合う場がとても少ないと思いました。確かに授業を円滑に進めることも大切ではありますが、今回の模擬授業コンテストで受けた授業のようにもっと児童が主体的に学べる授業にしていきたいと感じました。このように自分が児童の視点に立ち考えることのできる機会があることで、自分の授業の振り返りとなり良い刺激が得られるので、今回学んだことをこれからの学びに活かしていきたいです。

たに いずみ  
谷 泉美さん  
学部2年 幼児教育コース



コンテスト発表者は自信にあふれていました。この日のために僕たちも自分の班の代表者の指導案検討を行い、教具の準備、模擬授業の練習を行いました。自分の班の代表になった人の事前の準備や努力を目の当たりにしていたので、頭が下がりました。他の授業者もこの日のために並々ならぬ研鑽を積んできたと思います。自分は英語の授業を受けましたが、子どもの興味関心を引き、飽きさせないための工夫が所々にありまし

た。例えば、英語の歌をただ歌うだけではなく、身振りを加え、ノックする音を、実際に机をたたいて出させて体験するといった工夫がありました。この日の授業をきっかけに、自分の用いる教具は、ねらいを達成するために適切か、ただ淡々と授業をこなしているだけでなく子どもの興味関心を引けるような工夫があるかを改めて考える機会になりました。

ほり こうた  
堀 晃大さん  
大学院1年 教育臨床コース

先生になる  
児童生徒の  
気持ちになる



私の選んだ単元は、小学1年生の初めの方で習う単元です。そのため、児童が飽きずに楽しんで授業に臨めるにはどうしたらよいかを重視して授業を考えました。中でも特に授業で使う教具については時間をかけて考えました。一人に一つがいいのか、ペアやグループで一つがいいのか、黒板に貼る掲示物は何色がいいのかなど、時には同じグループの仲間や先生に相談してアドバイスをもらうこともありました。コンテスト本番では、児童役が楽しんで手製の教具を使って学ぶ様子を見ることができて、教師としてこちら側もうれしくなりました。今回のコンテストでは、一つの授業に時間をかけて考えることができました。間近に迫った小学校実習では、短い期間ですがコンテスト以上に子どもたちのことを考えた授業ができるように頑張っていきたいです。

まつ お めき  
松尾 友紀さん  
学部2年 教職デザインコース



代表としてコンテストに臨みましたが、本番までの準備過程において貴重な経験を得ることができたと思返します。それは、個人で取り組んだ教材作成や指導案の吟味などもそうですが、グループの仲間と共に作りあげた授業であったという実感を得られたことが一番にあります。忙しいであろう免P生が夜の教室に集まり、アイデアを出し合い、意見をぶつけ合った姿は今でも鮮明に思い出されます。今後の教職人生におけるスタートを「絶対に先生になりたい」という仲間と共に飾れたことは最高の思い出となりました。そして、いつも笑顔で見守ってくださった先生方には感謝の一言しかありません。本当にありがとうございました。

さとう ゆう  
佐藤 優さん  
大学院1年 教育連携コース



15分という短い時間の中でいかに英語の楽しさを伝えられるかが課題でした。私自身、英語を楽しんでいたのは、英語を聞き取り、英語で自分の思いを伝えられた時でした。そういう思いを子どもたちにも感じてほしかったので、「聞くこと」と「話すこと」を中心とした授業を行いました。授業は英語で行うので、何を言っているか分からずついていけない子どもが出ないように、絵や写真、ジェスチャーなど視覚的要素を多く取り入れたり、子ども同士で活動内容を確認する時間を取り入れたりしました。この授業は、教科書を使わないオリジナルの授業なので、外国語活動や英語科指導法に関する本をたくさん読みましたが、それをもとに授業を考えるのはとても楽しかったですし、それで得た知識は自分の財産になりました。これからも向上心を忘れず、理想の教師像を目指して努力していきます。

きつない めぐみ  
橋内 恵さん  
学部2年 言語系コース（英語）



代表が決まった後に腕を負傷してしまい、グループの学生には準備も当日もお手伝いしていただきました。グループの話し合いで出た改善策をもとに変更し、今回の授業では、児童が身近に感じ、楽しんでもらえるような授業を目指して行いました。4年生の保健で食事についての授業を行いました。5年生で習う家庭の分野にいかないようにする境が難しく感じました。指導案上や自分のイメージでは順序だてて進めることができていましたが、実際に授業をしてみると、思うようにいかないことが多々ありました。学生を児童役にしても思うようにいかないことがほとんどなのだろうと感じました。これらのことから、準備や予想をたくさんするということが大切だと感じました。その時間だけでなく準備段階も大切にしていきたいです。

たかつじ きのの  
高辻 紀乃さん  
学部2年 生活・健康系コース（保健体育）



私は今まで自分の授業に満足したことがありませんでした。なぜなら、自分の授業のどこをどう風に変更すれば良くなるのか振り返ることができていなかったからです。ですが、今回の模擬授業コンテストに向けて、自分の授業をグループの仲間や先生に見てもらい、「ここをもっとこう

にしざわ やすあき  
西沢 泰明さん  
大学院1年 芸術系教育実践コース（音楽）

した方がいいんじゃない?」「この発問をしたら子どもたちはどういう風に反応するかな?」など見てくれる人からコメントをもらうことで、自分では気付かないような意見を聞くことができました。また、先生が的確にコメントして下さり、自分の中で考えがよりまとまりました。振り返りを密に行うことで、改善点が明確になり、その改善点を直すことで授業を行う自信と楽しさが生まれました。協力して下さった方に感謝の気持ちでいっぱいです。本当にありがとうございました。

## ラーメンダイナー GOGO宝来軒

上越市大豆1-12-59  
TEL 025-523-1750



### オススメポイント!

おしゃれな内装のラーメン屋さん。  
熱々の上越ラーメンがとてもおいしい!  
大学近くだからぜひ行ってみよう。



### 「上越中華ソバ塩レモン」

あっさりした塩味のスープに、レモンを乗せ、チャーシューは鶏肉という全て低カロリーかつさっぱりした食材を使って作られている。女性人気が高いかも!?

## 麺屋あごすけ

上越市下門前1650  
TEL 025-545-3335



### オススメポイント!

上越は海の幸、山の幸が豊富。  
甘エビやコシヒカリの米粉など地元の食材を  
使っておいしいラーメンを作っている。  
1度食べに行ってみてね。



### 「旨塩鶏麺(ろまひおどりめん)」

魚介ベースのスープで香りがとてもよい。麺は弾力が高め。さっぱりしているのでもってとても食べやすい。



## 編集後記

上越市には多くのラーメン屋さんがあるとあらためて感じました。  
その中でも厳選4店を紹介しています!  
春から新生活を始める人、ぜひぜひ足を運んでみてください!

大学院1年 坪井 亮、竹内 睦希、松永 滯奈

## 学生がつくる上教大生のひろば 上越 ラーメン特集



## たんたん麺の店 菜心

上越市東城町1-12-16  
TEL 025-526-8924



### オススメポイント!

坦々麺の専門店。ラー油の辛さと香ばしい胡麻の  
風味がおいしい。夏には「冷やし坦々麺」も出るよ!



### 「坦々麺」

ゴマをベースとしたスープで、食べると  
ゴマの香りがとても広がる。辛さが調節  
でき辛いのが苦手な方でも食べやすい。

## 中華そば 立川

上越市国府4-8-1  
TEL 025-546-7853



### オススメポイント!

名古屋から取り寄せているこだわりたまり醤油と  
立川ブラックラーメン専用の自家製麺を使っている。  
大盛り料金が+10円で食べることができリーズナブル。  
また、手作り餃子も評判良く本曜日は1皿100円での  
販売を行っているのでもってこちらもオススメ。



### 「立川ブラック」

醤油の味がしっかりと出ていて、どこか  
懐かしさを感じるラーメン。こってり系  
なので男性人気が高いかも!?

# 剣道部

## 日々の活動

剣道部は朝2回、夕方2回の週4回の活動を地域の先生方や子どもたちと共に行っています。部員の多くは剣道をずっと続けてきていますが、中には一度辞めてしまっても大学で再び始めた人もいます。一人ひとりが教職としての人間形成や全日本オープン大会他各種大会入賞、昇段などそれぞれの目標を持って活動しています。また、多くの先生方が一緒に参加されるのでご指導いただけます。剣道に興味があるけれど大学で始めるのは抵抗があるという人も安心して始めることができます。

## 大会では

1年間の主要な大会は春と秋に開催される全国大会の北信越予選と冬に開催される全日本学生剣道オープン大会です。北信越大会で上位成績を収める部員もいるため、日々の活動を通じてお互いに刺激し高め合っています。さらに、これらの大会に関係して近年では北海道や広島などに行きました。練習の充実とともに県外に行くことで部員との仲を深めることのできる楽しい部活になっています。

## 地域とのかかわり

剣道部では地域の剣道クラブの試合に付き添いとして参加することができます。子どもたちが頑張る姿を見て気持ちを引き締めるとともに、ここで小学生を指導することは将来教職に就くための経験として貴重な場となっています。この他に大会運営に参加することもあります。大会にエントリーするだけでなく、大会はどのように運営されているのかを知り様々な人と関わる機会になっています。

日常的な活動の他にも、多くの経験ができる剣道部と一緒に汗を流しましょう！



### DATA

平成30年3月現在  
部員数/13人  
活動日/毎週月、水、木、金曜日  
活動場所/柔・剣道場  
活動実績/  
全国教員系大学剣道ゼミナール・学生剣道大会ベスト8  
北信越大会 個人ベスト8

### 【取材協力者】

学部2年 教職デザインコース  
高松 駿太郎

### DATA

平成30年3月現在  
部員数/29人  
活動日/毎週金曜日  
活動場所/人文棟201教室  
活動実績/大学祭参加

### 【取材協力者】

大学院2年 特別支援教育コース  
橋本 真央



# 手話研究会 しゅわーる

## 様々な人と触れ合う場で

『しゅわーる』は、手話を勉強したり、使うことで、自分の視野を広げ、障害理解を目指しているサークルです。過半数がこのサークルに入ってから、手話と出会いました。手話を使用することで、意思疎通が簡単になるだけでなく、聴覚障害者の文化を知ることができます。

サークルには、聴覚障害学生も参加しています。彼らに『しゅわーる』はどのような所かを聞いてみました。『しゅわーる』という場は、健聴者にとっては手話を勉強する場だと思います。しかし、自分たちに手話は習得されたものであるため、手話を通じた健聴者との交流が重要なかなと思っています。手話という同じツールで話そうとしてくれることがとても嬉しいです。手話を学ぼうとすることは、手話を言語とする私達と話したいということだと思っています。だからこそ、『しゅわーる』のような場があることが、自分達にとって心のよりどころになっています。」と、話していました。彼らの話は、当

事者の経験としてとても貴重です。共に会話したり過ごすことで、耳が聞こえる、聞こえないにかかわらず、様々な人との輪を広げられます。『しゅわーる』がそのような場になれるよう、日々努めています。

## 今後について

毎年、大学祭で手話歌等を披露しています。まだ、初心者が多く、手話を勉強し続けている最中です。今後も障害者理解を深めることを大切にし、手話の普及に取り組んでいきます。

『しゅわーる』は週1回の活動を行い、興味を持った人は地域の手話サークルにも参加しています。手話は私達の動きがベースとなっているものも多くあり、短期間で手話による日常会話ができるようになった人も多くいます。少しでも手話に興味をもった方、いつでもお待ちしております！



# 上越教育大学 附属幼稚園

# 附属学校だより

# 遊び込む子ども

幼児にとって「遊びは学びそのもの」です。豊かな環境の中で思う存分たっぷり遊びながら、物事にかかわる意欲や人を思いやる気持ちなど、「生きる力の基礎」が育まれています。

また、平成28年4月から、登園前7時40分から降園後18時まで預かり保育を実施しており、子育て支援にも努めています。



園のすぐ裏は徒歩0分で森。みどりの小道やこども広場で思いきり自然と親しんでいます。



実のなる木をはじめ何種類もの木々は、季節を彩ります。



池にはメダカやオタマジャクシがいっぱい。発見もいっぱいです。



広い園庭は、自転車乗りやサッカーで盛り上がります。

## 豊かな環境



ヨロヨロコース



落ち葉遊び



雨どい遊び

## 広がる遊び



お寿司やさんでっ



雪遊び



保護者手作りの遊具も子どもたちのお気に入りです。

## 辰野千壽教育賞授与式を 挙 行

平成29年9月29日(金)に「第10回辰野千壽教育賞」授与式を挙行しました。最優秀賞1名、優秀賞1名に賞状が授与されるとともに、副賞が贈呈されました。

最優秀賞を受賞した山之内幹氏(鹿児島県立鹿児島聾学校教諭)のテーマは「特別支援教育における指導記録の生かし方と教材・教具の開発」。伊佐貢一氏(魚沼市教育委員会学校教育課学習指導センター統括指導主事)のテーマは「教育実践の基盤となる自治的な学級集団の育成ーソーシャルスキル教育と自治的な学級集団づくりの研究を中心ー」というもので、いずれも意義あるものとして高く評価されました。

同教育賞は、平成20年度に創立30周年を記念し、初代学長である辰野千壽氏の長年にわたる教育・研究業績の精神を受け継ぎ、我が国の教育に多大な影響を与えてくれた教育・研究の振興に貢献するため創設され、10回目となる今回は、応募総数15件でした。



### ● 最優秀賞



**山之内 幹氏**  
(鹿児島県立鹿児島聾学校教諭)

【テーマ】 特別支援教育における指導記録の生かし方と教材・教具の開発

辰野千壽教育賞最優秀賞という権威ある賞をいただき嬉しく、光栄に思います。

33年間、特別支援教育に関わってきました。その間、忠実に守ってきた2人の恩師(故人)の言葉があります。一つは学生時代、医師であった教授から言われた「記録をとることは医学でも教育でも大事だよ。初めての事例であってもちゃんと記録を残しておけば、同じような事例が後から2例、3例と報告された時に新たな発見や知見につながることもある」。二つ目は初任校で仕えた校長の「教員は転動がある。赴任した学校で会う子どもたちはそれぞれ異なる課題や問題を抱えている。それを解決するのが教師の役目だ」という言葉でした。

記録をとること、赴任した先々で出会った子どもたちの課題を解決すること。この二つのことを忘れず、教育実践を行ってきました。またこれからも続けていきます。

この賞を2人の恩師と、現場で共に悩んできた同僚と保護者、そして向き合ってきた子どもたちといただきたいと思います。

### ● 優秀賞



**伊佐 貢一氏**  
(魚沼市教育委員会学校教育課学習指導センター統括指導主事)

【テーマ】 教育実践の基盤となる自治的な学級集団の育成

ーソーシャルスキル教育と自治的な学級集団づくりの研究を中心ー

第10回辰野千壽教育賞優秀賞を受賞することができ、たいへん光栄に思います。学級集団の状態を良好に保つことが、教育実践の基盤になると考え実践的に研究を続けてきました。その過程で、学級づくりは学級担任に任せる部分と、学校体制で支援する部分が必要であると考えようになりました。学校体制の取組として、ソーシャルスキル教育や学級づくりスタンダード等について提案してきました。

今回の応募に際し、自らの研究や教職キャリアを振り返りました。教育課題に直面したとき、地域に上越教育大学という研究機関があったことで、教育実践論文の投稿をはじめその時々立場で学びを継続しながら解決の糸口を見つけることができたと思います。上越教育大学の地域貢献活動に改めて感謝し、受賞を機に更に歩みを進めていきたいと思っています。

## 日本人拉致問題に関わる 指導案発表会を開催

政府 拉致問題対策本部と共催する「平成29年度北朝鮮による日本人拉致問題啓発セミナー」の集大成として、セミナー参加学生による日本人拉致問題に関わる指導案発表会を行いました。

本セミナーは、10月から12月にかけて実施され、内閣審議官による拉致問題に関する講演会や拉致現場視察、帰国拉致被害者である蓮池薫氏と曾我ひとみ氏との懇談や政府主催国際シンポジウムへの参加など、各プログラムに積極的に取り組みながら、拉致問題に関わる授業を想定した指導案作りを進めてきました。

平成29年12月21日(木)に開催された指導案発表会には、セミナー参加学生20名のほか、上越教育大学から川崎学長、梅野理事兼副学長、指導にあたった学校教育実践研究センターの担当教員11名が出席しました。また、内閣官房拉致問題対策本部事務局から齋藤企画官ほか1名、新潟県知事政策局国際課拉致問題調整室から2名が出席しました。

指導案発表会では、4つのグループがそれぞれ「社会科」「道徳」「特別活動」「人権教育」の視点から作成した指導案をもとに、10分間の模擬授業を行い、その後、授業内容に対して参加者が意見

感想を述べる形式で行われました。今回の指導案発表会をもってセミナーの全てのプログラムが終了しましたが、拉致問題の風化が懸念されている中、本セミナーで貴重な経験を積んだ学生が将来、学校現場で拉致問題を取り上げること、児童生徒の拉致問題に対する理解促進を図ることが期待されるなど、参加学生の今後の活躍にも大きな期待が寄せられるセミナーとなりました。



模擬授業の様子



参加学生と教職員

## 金沢学院大学と 連携・協力協定

平成29年12月27日(水)に、金沢学院大学と包括的連携・協力に関する協定を締結しました。

この協定は、両大学が行う教員養成、教育、研究などでの人的・物的資源の相互活用などの連携協力を推進するものです。さらに、両大学の理念や特色を活かした活動を通して、地域の発展につながることを目的としています。

このほど上越教育大学で行われた調印式には、金沢学院大学から秋山稔理事兼学長ほか6名、上越教育大学から川崎直哉学長ほか4名が出席しました。

金沢学院大学は来年度、文学部に小学校教諭免許などを取得できる教育学科を開設する予定で、教員養成系大学である上越教育大学との連携により、互いに有為な人材の育成につながることを期待されます。



秋山金沢学院大学長(左)と川崎上越教育大学長(右)

## 「上越教育大学基金」への ご寄附のお願い

平成30年1月から「修学支援事業基金」を創設し

上越教育大学では、法人としての財政基盤の強化を図り、本学における学生支援活動、教育研究活動等の推進を図ることを目的に、平成26年11月に「上越教育大学基金」を設置し、これまでに多くの企業、団体、個人の皆様からご支援をいただいております。

この度、平成30年1月から「修学支援事業基金」を創設し、寄附を募ることとなりました。学生の修学支援事業への個人からの寄附に対しては、従来の「所得控除」に比べ、減税効果の大きい「税額控除」が適用されることから、個人の寄附者にとって有利となるものです。

「上越教育大学基金」を活用した活動に関しては、「修学支援事業」のほか、「教育研究、地域貢献、国際交流等の各種事業」に加えて、今年「創立40周年記念事業」も控えております。企業、団体、個人の皆様からの引き続きのご支援・ご協力をお願い申し上げます。

### ご寄附のお申込み

〔振込用紙によるご寄附〕  
上越教育大学基金のホームページ「寄附申込フォーム」より、振込用紙をご請求ください。  
〔現金によるご寄附〕

現金でのご寄附を希望される方はお手数ですが、お問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先  
上越教育大学総合交流推進室  
(上越教育大学広報課内)

〒943-8512 上越市山屋敷町1番地  
TEL 025-5221-3202  
FAX 025-5221-3227  
E-mail kikin@juen.ac.jp  
http://www.juen.ac.jp/300kikin/index.html



修了生からの  
お便り



## 第二の青春！ 充実の2年間



この世の中に、こんなにも不思議で興味深いことがあったとは！

まさに課題を追究する面白さを実感した当大学院での2年間、その後の教員としての在り方や考え方、生き方に大きな影響を受けた2年間でした。今でも派遣やお世話になった先生方に感謝し、先生方と共に学んだ院生、学生の皆さんは私の一生の宝です。

私は当時の自然系理科コースで「地学教室」の天野和孝先生（前副学長）の古生物学ゼミに所属しました。当時の地学教室は、この度瑞宝重光章叙勲の栄に輝いた元上越教育大学学長の渡邊隆先生のもと、多数の院生・学生が所属していました。卒業論文・修士論文発表会は大変な盛会で、厳しい質問が飛び交い、随分鍛えられました。

修士論文では、日本海が開き、および日本列島が形造られてからの第四紀の地層を中心に「岩石穿孔性二枚貝」という岩に穴を掘る貝とその巣穴の化石を調べていました。物言わぬ貝化石からひも解く日本海の変遷や貝類の存亡!? やればやるほど面白く、興味が広がり、息子の世話もそこそこに、化石ばかりか現生の貝も探し求め、ハンマー片手に海に潜っていた始末。こんな調子ですから、指導の天野先生には大変

ご苦勞をお掛けしました。

まさに第二の青春！ 充実の2年間で、大学院での学びの成果は、職種が変わろうとも生き続けています。

院生・学生の皆様には、二度とないこの時を大切に、様々な経験を積み、自らの目的達成にご尽力ください。また、現職の意志ある教職員の皆様には、ぜひ当大学院の修学をお勧めします。私の経験から教職を経験してからの自らの課題解決の道のは、その後に生きる得難い財産となります。

修了生の一人として、地元の一小学校長として、いつも応援したい思いでいっぱいです。



品田 やよい  
(しなだ やよい)

新潟県上越市出身。平成6年3月修了後、にしき養護学校教諭を経て、上越地区理科教育センター専任所員に。その後、新井市立吉木小学校教諭、

柏崎市立中通小学校及び新井市立新井北小学校教頭、柏崎市立石地小学校校長、柏崎市教育委員会・指導兼管理主事、上越教育事務所・指導主事を務め、現在、上越市立清里小学校に校長として勤務。心の教育を中心に据えた清里小中学校の一貫教育を進めている。

## 大学院同窓会

### 上越教育大学同窓会岩手県支部 「春日山会」開催報告



今年度の「春日山会」は、平成29年8月5日（土）、上越教育大学から川崎直哉学長をお迎えし、総勢11名で開催されました。早川幸男会長の挨拶に続いて、川崎学長から上越教育大学の現状や上越の様子についてご講話をいただきました。その後、会員からの近況報告等々、あつという間に楽しい時間が過ぎました。

今年度で33回目となる「春日山会」は、今や総勢114名の大所帯となっています。会員の多くは小学校・中学校・高校・大学・教育委員会などの現職教員で、岩手県の教育の中心となって活躍しております。

この会は、上越教育大学大学院時代に培った学識と実践力について、お互いの立場から理想の教育を語る会です。また、一昨年お亡くなりになられた上越教育大学元学長加藤章先生を偲ぶ会でもあります。毎年「春日山会」にご参加くださった加藤先生は、優しく、そして熱い思いで常に私たちを導いてくださいました。これからも加藤先生のスピリットを教育実践に生かすことを確認し、高らかに「高田の四季」を合唱して会を閉じました。

私たちの絆を一層深め、岩手の教育の為ならんと、今後とも会員全員で春日山会を大切に育んで参りたいと思います。

盛岡教育事務所 経営指導主事  
帷子 誠

#### 修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。  
詳細については、公式ホームページをご覧ください。

上越教育大学 同窓会

お問い合わせ先 上越教育大学大学院同窓会事務局  
E-mail dousoukai@juen.ac.jp



# 退職教員から 皆さんへ



学校教育学系  
教授 近藤 誠  
こんどう まこと

**プロフィール**  
2015年4月、教授として着任。専門は教育学、学校経営。

### 3年間、大変お世話になりました

いつの間にか、職業生活も都合40年となりました。最後の3年間に皆様を支えられて、何とか過ごすことができました。私は、馬の口とらえて老を迎えてしまいましたが、皆様の益々のご健勝と一層のご活躍を心よりお祈り申し上げます。



自然・生活教育学系  
教授 佐藤 悦子  
さとう えつこ

**プロフィール**  
1983年5月、助手として着任。講師、助教授を経て、2002年2月教授に就任。専門は被服学、衣生活一般。

### 日々の暮らしを大切に

着任した年、3年続いた大雪に熱烈歓迎された。大雪を経験した所属教員皆で、文部省の特定研究費交付を受けて「豪雪地帯の生活者の暮らしと教育」に取り組んだ。あれから30数年、メンバーが変わろうとも各専門領域を活かし、生活者の暮らしに向き合っていると気づかされる。日々の暮らしが教育・研究であることに感謝！



芸術・体育教育学系  
教授 後藤 丹  
ごとう たもと

**プロフィール**  
1985年10月、助手として着任。講師、助教授を経て、2002年1月教授に就任。専門は作曲、音楽分析。

### 地元文化への貢献を

32年間、楽しい日々を過ごすことができました。作曲家としては、大学の「学園歌」、「上越市民の歌」、また「青田川の歌」などを書けたのが大きな喜びです。上越教育大学が地元文化への貢献度を一層高めることを願っております。



自然・生活教育学系  
教授 小林 辰至  
こばやし たつし

**プロフィール**  
2002年4月、宮崎大学より教授として着任。専門は理科教育学。

### 教育実践学の構築に適した環境でした

本学には16年間勤務しました。その間、中学校理科教員の頃に抱いていた課題の解決に向けて、全力で研究に取り組むことができました。開発した理科の指導法は近年、学校現場で活用されるようになりました。教育研究の環境を支えていただいた職員の皆様に心より感謝申し上げます。



人文・社会教育学系  
教授 北條 礼子  
ほうじょう れいこ

**プロフィール**  
1987年7月、助手として着任。講師、助教授を経て、2006年4月教授に就任。専門は教育工学、小学校英語教育。

### 私の一生の宝

昭和62年7月に助手として着任してから30年以上上越教育大学にお世話になりました。本学で出会えた様々な方々やゼミ生をはじめとする学生さんたちは私の一生の宝となりました。本学の一層のご発展をお祈りしております。

## 「旅立つ皆さんへ」

長かった冬も終わりに近づき、春の息吹を感じられる頃、卒業式、修了式の季節となりました。本学の学部を卒業される皆さん、大学院を修了される皆さん、誠におめでとうございます。本学で研鑽された成果を自信として、それぞれの道で力を発揮することを期待しております。ほとんどの皆さんは、春から学校現場で教壇に立つことになると思いますが、人間を相手にする「教育」という活動では言うまでもなく、教師が最も大きな影響力を持ち、良い教師との出会いが、子供達の未来を大きく左右するといつても過言ではありません。いつまでも子供達の心に残るような思いやりのある教師となつて下さることを願っています。

ところで、以前、心療内科医の海原純子氏が新聞のコラムに興味深いことを書いていました。例えば、学校現場に当てはめると、教室で授業を行っている際に、つまらなそうな顔をしている子供が一人いると、すぐ目に入ってしまう。それが一人気になり、たつた一人の子供に影響を受けてしまうのは何故だろう、という内容のものでした。「あくびをしているのは

一人である」「つまらないかもしれないが、睡眠不足なのかもしれない」「自分の話がつまらないと決めつけてはいけな

い」などと捉えることも大事であるとの趣旨でした。「一人があくびする→つまらないかも→全員がつまらないのではないか」と感情のままに連想すると気分が落ち込むスパイラルにはまってしまう危険があるとの指摘でした。マイナスはプラスを圧倒するといひ、悪いものを見つげ出す力は良いものを見つげ出す力より大きいという脳のメカニズムがあること、動物の脳には悪いニュースを優先的に見つけ出し処理する能力が組み込まれていて、これは生物が生き延びるための危険回避のメカニズムになっているといふことでした。つまり、悪い評価をいつまでも気にしてしまうのは、性格ではなく、人間が生き延びるために必要な脳のメカニズムであり、それを良いことに目を向けるといふ次のステップにつながることで、いやな気分を乗り越えることができるわけです。教育現場ではいろいろな乗り越えなければならぬ出来事があると思います。前向きに対処することで乗

り越えられることを願っています。

最後に、高田にも縁の深い堀口大学の「雪国の暦」と題する詩を送ります。四季の豊かな上越の思い出となりますように……。

四月の末に雪が消え  
八月胡瓜がなりそめる  
十月半ばに冬が来て  
紅葉の上に雪が降る



学長 川崎 直哉

# インタビュー 大学院で輝く人

## 北海道から上越市へ

「このまま教師になって、私は何を生徒に伝えられるのだろうか？」

私が教員採用試験を終えてふと疑問に思ったことです。この疑問を当時の大学の先生にぶつけたところ、上越教育大学への進学を勧められました。大学の先生は、「いままで北海道の中でしか教育を学んでこなかった君が道外へ出て学ぶことに意味があり、学びの中でその疑問に対する答えは見つかるはずだ。」とおっしゃいました。その後、上越教育大学には、この疑問に対するヒントを与えてくれるような素晴らしい先生方が在籍しているということを知り、入学を決めました。

私が抱えている疑問への答えはまだ見つかっていませんが、大学院での先生方、友人達との充実した日々の中で一歩ずつ答えに近づいているという確かな手ごたえがあります。私だからこそ生徒に伝えられることをこれからも探したいと思います。

## 目指す教師像

私が目指す教師像は「生徒の夢が叶うようにする教師」です。生徒に夢がない場合は、「生徒の夢を共に探す教師」になりたいと思います。人は、目標があれば努力するし、目標がなければ努力できません。夢は、人生



大学院1年  
理科コース  
渋谷 優斗 さん

の目標です。私は、教師という仕事を通じて生徒の夢への努力を支えたいと思っています。夢がまだない生徒に対しては、生徒がやりがいを感じることを、やりたいと思うことを一緒に探したいと思います。

加えて、理科を学ぶ楽しさを伝えられるような教師になりたいです。特に物理。自分の作った教材、教具で生徒が理解を深め、理科に対して興味を持ってくれたら、それは私にとって至上の喜びです。

## さいごに

大学院の生活は何もしなければ長く、何かをしようとするとも短いものです。何事もそうだと思います。私は、短い中でも精一杯励みたいと思います。



## インタビューを終えて

ウォルト・ディズニーは「夢を求め続ける勇気さえあれば、すべての夢は必ず実現できる」という格言を残したらしい。渋谷優斗さんはディズニー氏のように子ども達に夢の国をみせることができるだろうか……乞うご期待。

### ■聞き手・文(写真左より)

大学院1年 理科コース 橋本 大輔  
大学院1年 理科コース 三好 大智  
(中央・本人)  
大学院1年 理科コース 上東 大起  
大学院1年 理科コース 堀内 紀幸



アンケートにご協力ください

公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からもご回答いただけます。QRコードは(株)デンソーウェブの登録商標です。